

谷川 赤谷川源頭～毛渡沢山スキー

野村

【日時】2008年3月23日(日)

【メンバー】飯田(L)、手嶋、鈴木、大野、野村

まずはルートを概説しておこう。天神平スキー場から入り、谷川岳～オジカの頭～赤谷源頭滑降～万太郎山～毛渡沢～群大ヒュッテ～土樽 というルート。ざっと20kmはあるルートで過去にも当会で行った記録はあるものの日帰りには長い！

谷川岳ロープウエーの駅からたくさんの人たちと前後しつつ天神尾根にとりつく。今日は快晴、暑くなりそうである。

先日の雪訓で当会のメンバーが掘った雪洞の跡はしっかり残っていた。会長はあまり調子があがらない様子で、最初からやや遅れがちだが、大きくは遅れないのはさすが。自分の場合は、遅れだすと思いきり遅れちゃうからなあ。見習わなきや。

一応、トマの耳は往復する。谷川岳はスキーヤー、ボーダーだらけで歩いて登っている人の方が数えるほどしかない。

気温が高く、雪は緩い。02年の記録ではアイゼンを使ったとのことだが、オジカ沢の頭までの細尾根にずっとスキーで進んだ先行者の踏み跡がついており、我々もスキーで歩を進めた。両サイドが切れ落ちているため、僕自身は結構緊張を強いられた。

避難小屋で小休止をとったらやっと待望の滑降だ。赤谷川源頭部はすばらしい斜面だった。雪崩る恐怖は感じない斜面だが、ところどころクレバスが隠れているため油断はできない。楽しんでいるとあっという間に300mを下ってしまった。

沢が南に屈曲するところから右手の斜面にとりつき万太郎山への登り返しだ。そろそろ疲れが出てきて、一部笹藪が出ている尾根を500m登るのに思いのほか時間がかった。あ～疲れた。



赤谷川源頭の斜面

さあ、後はひたすら滑るのみだ。重たい雪と疲れからテレマークターンを続けるのがしんどくなり、気を抜くと何度ひっくり返ったか。あいかわらず、会長の滑りは華麗。飯田さんも快調に先頭を切っていく。

群大ヒュッテ手前の踏み板のないつり橋は、幸いすぐそばにうすいながらもスノーブリッジが残っており、そこから渡る。あとは、ひたすら緩斜面

の林道滑降。今回はフリートレックが誰もいなかったなので、ここで以前の記録との時間差をかなり挽回。関越道の真下にある工事現場でスキーを外した。スキーをかついで土樽駅までのアスファルト歩きはほとんどみんな無言だった。

8年前にも行っている飯田 L のお薦めどおり大充実のルートでした。同行のみなさん、大変お疲れ様でした！そして、ありがとうございました！！



林道をひたすら滑る

【行程】

谷川岳ロープウエー駅(07:30)～トマの耳(10:15/10:30)～オジカ沢の頭(11:50/12:10)～万太郎山(15:00)～毛渡橋(17:10)～土樽駅(17:40)

【地形図】水上、三国峠、土樽